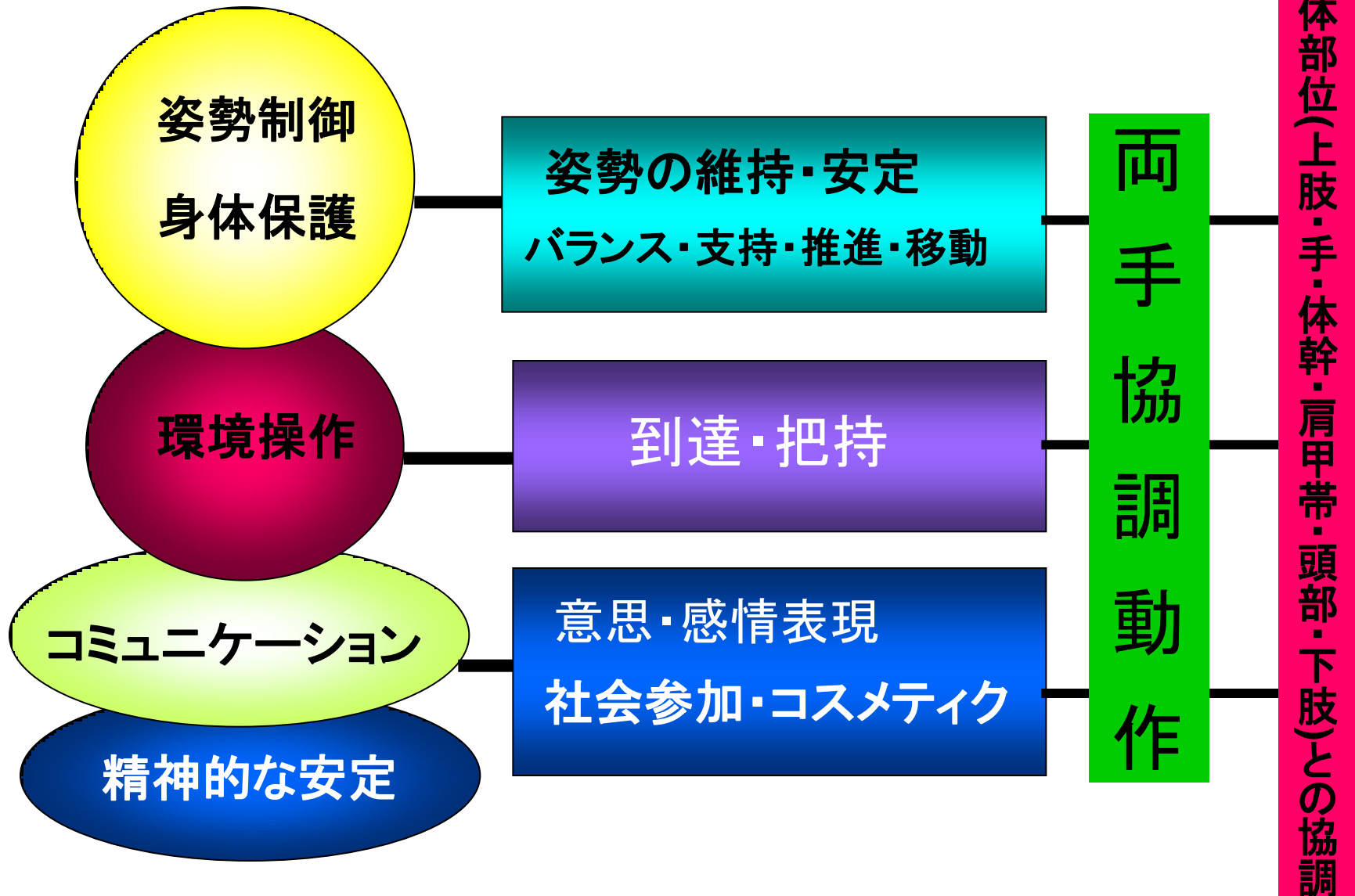


上肢・手機能



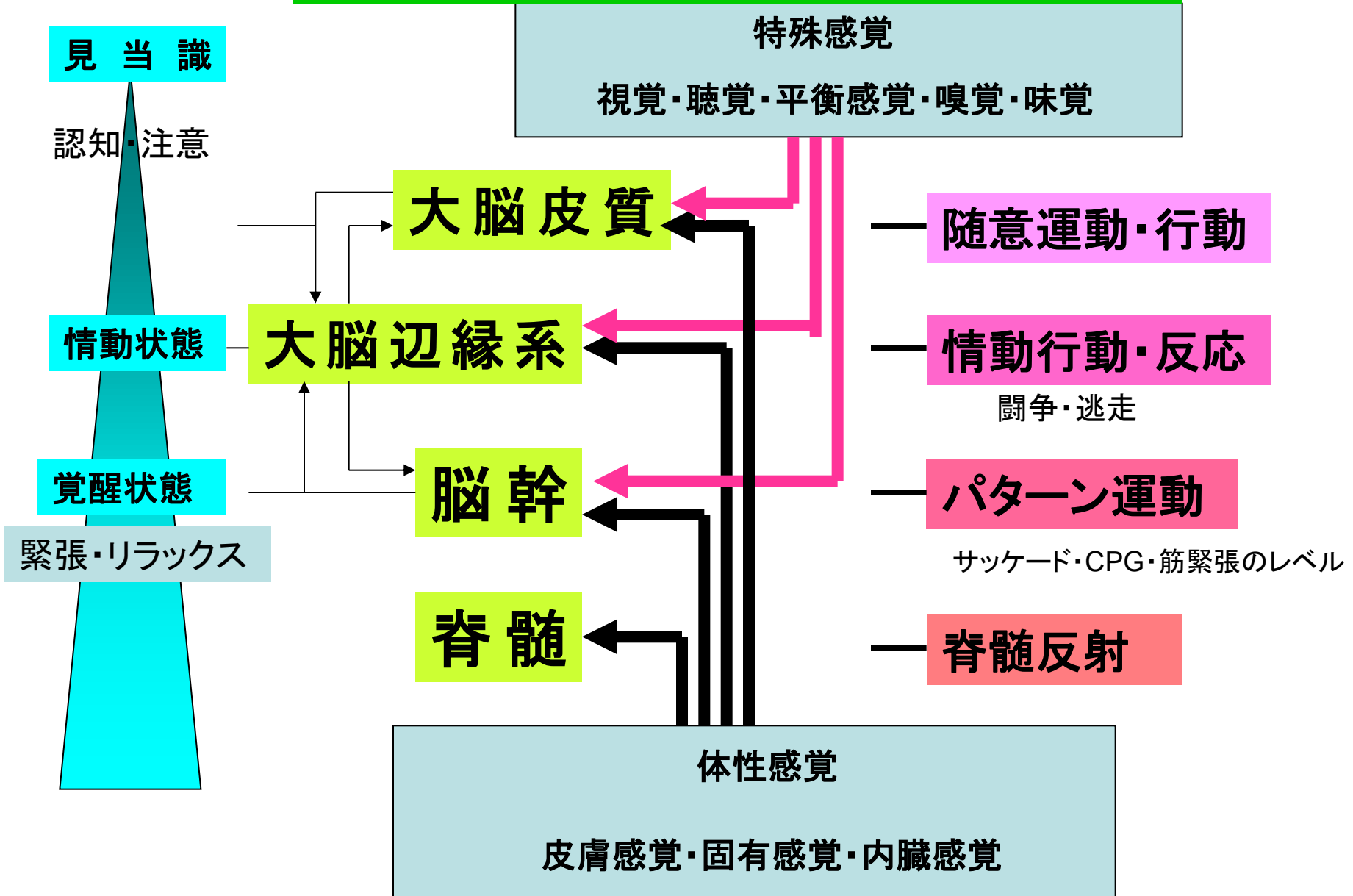
上肢・手の役割

- 正常な上肢機能は、目標にリーチし、把握し、操作する能力を含み、摂食、更衣、身支度、書字など活動にとって重要な微細運動スキルの根幹をなすものである。加え上肢機能は這ったり、歩いたりするといった粗大運動のスキルのなかでバランスを回復する能力や回復できないときは身体を守る能力に重要な役割を果たす。

Motor control

Anne Shumway-cook Marjorie H.Woollacott

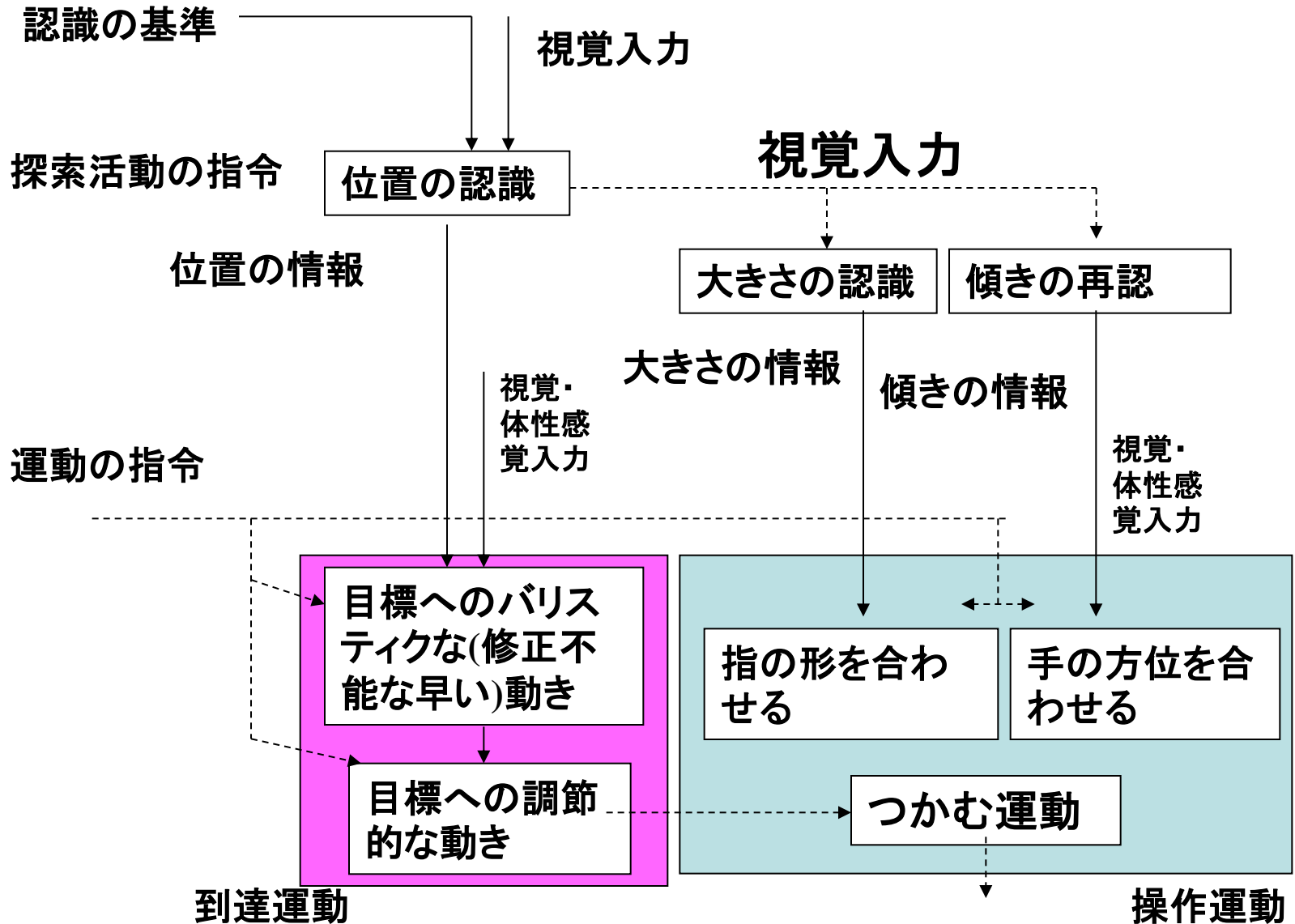
感覚情報の機能的意義



到達と操作運動のための統合的制御プログラム (Arbibによる)

視覚による対象の認識

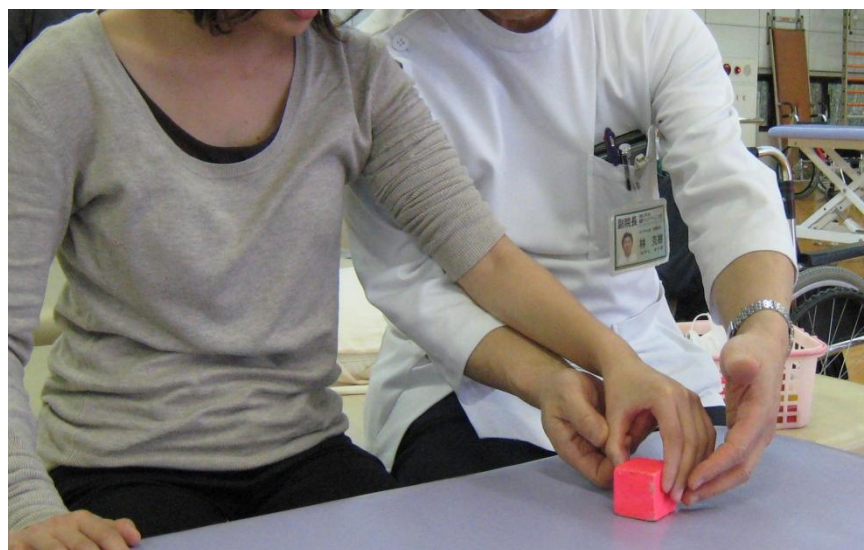
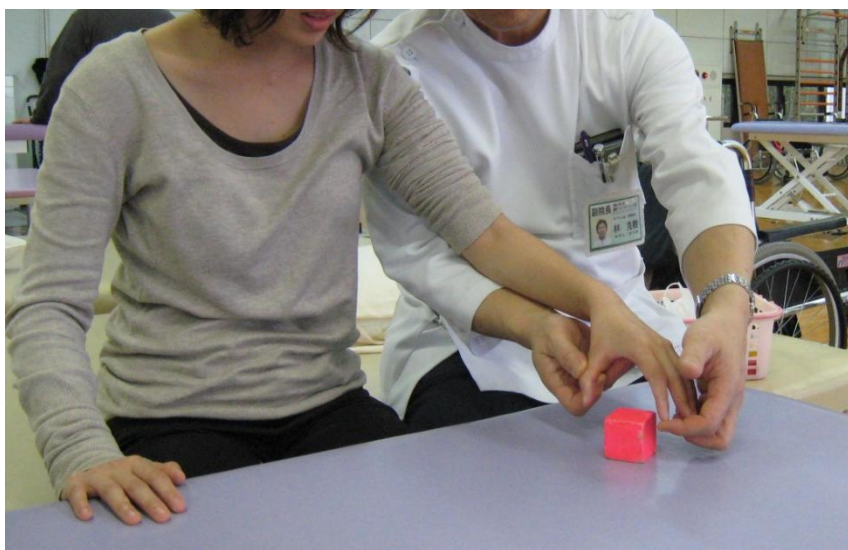
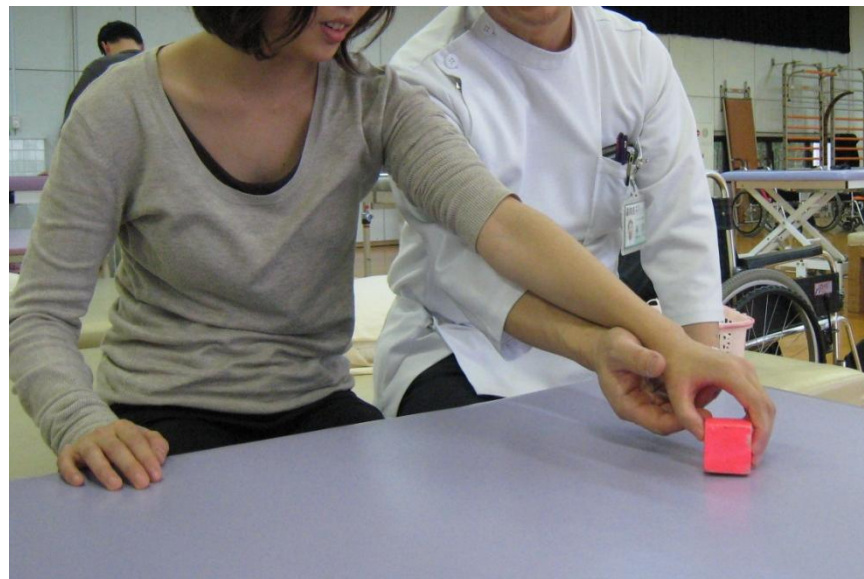
対象への到達と操作運動



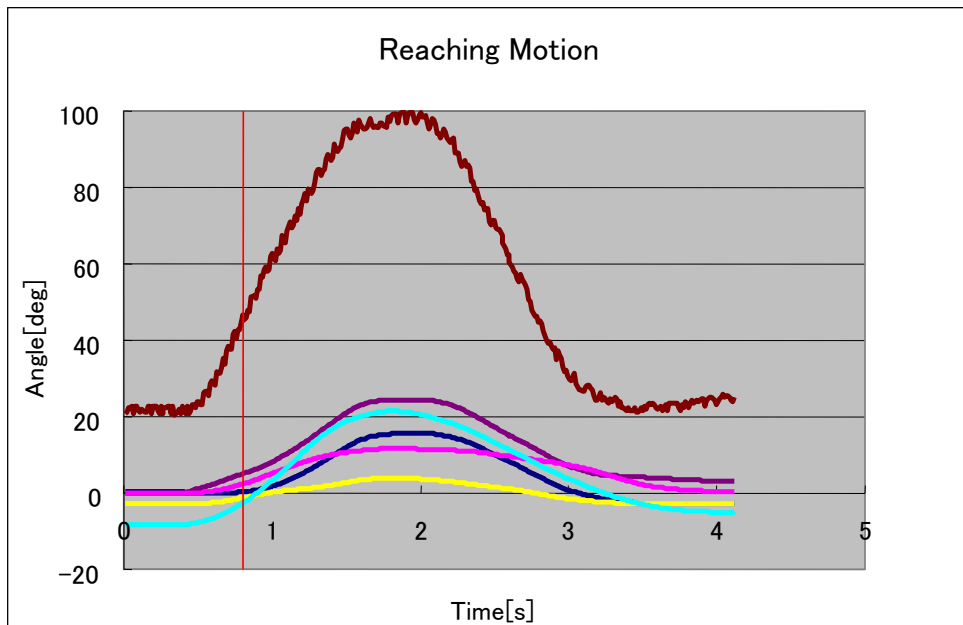
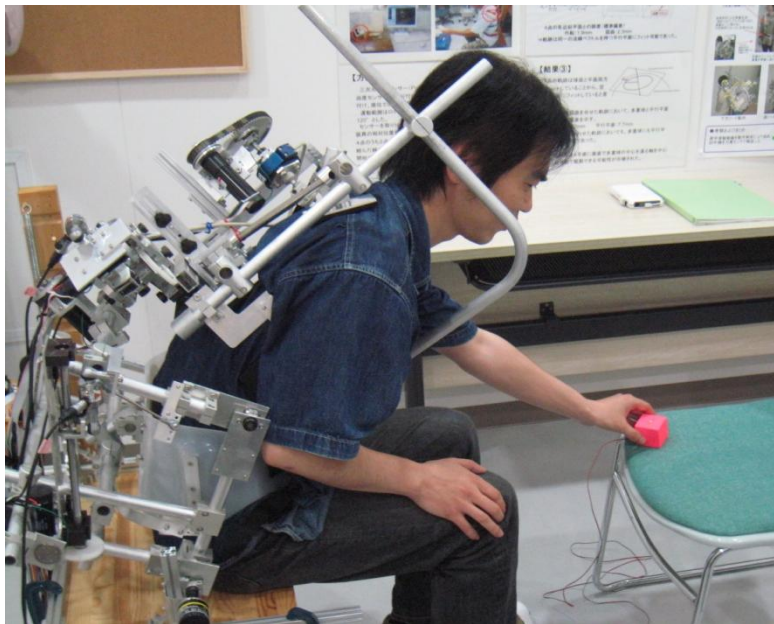
Preshaping と shaping の治療の重要性



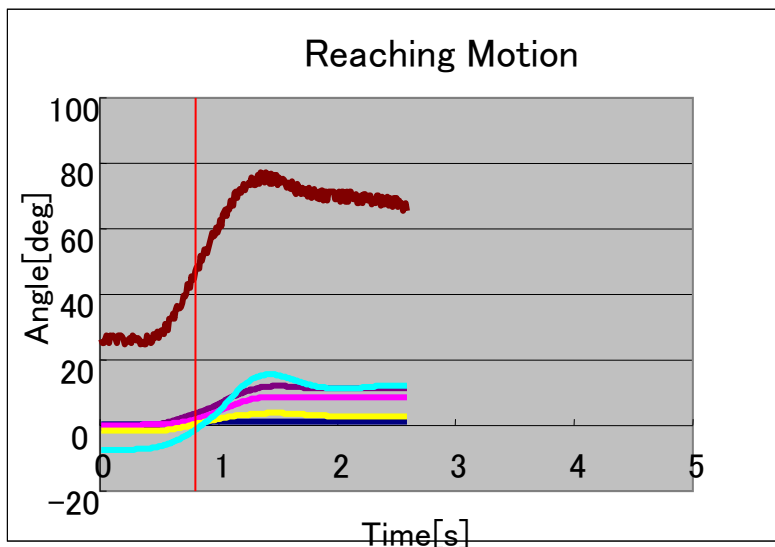
Preshaping: フランスJeannerd



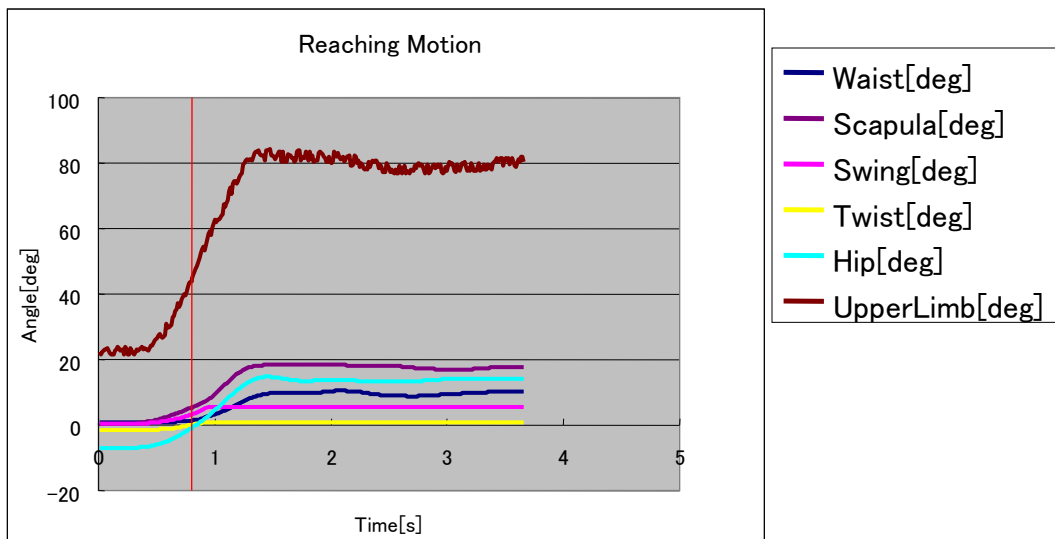
誠愛リハビリテーション病院と九州大学大学院工学研究院機会工学部との共同研究より



正常な到達把持動作



体幹屈曲制動



体幹回旋制動

2010年

上肢と手の治療で重要なこと

- 運動を引き出す
- 随意運動として構築する
- 安定した姿勢制御を取り戻す
- 体幹・頭部・下肢と上肢と手が協調して活動する
- 到達把持動作を一連の動作プロセスで行う
- 対象物、物品を治療に用いる
- 臥位から立位、移動を伴った場面を交え治療を実施する
- 筋緊張の調整を適時行う
- 適切なフィードバックが得られるように徒手的介入を行う
- 関節の可動性と皮膚、筋の粘弾性を維持する
- 日常動作場面の使用頻度を増やす

上肢と手の治療に必要な姿勢変化

